

## 第6学年3組 図画工作科学習指導案

【日時】令和6年7月24日(水)10:20～11:05 【場所】図工室 【指導者】島崎 智朗

### 本授業の参観の視点

児童と共に題材をつくり、児童の思いを大切にしたい造形活動を展開することで、児童自身が学びをつくることができるようにします。6年間の図画工作科の学びを通して身に付けた力を、児童自らが選択して活用できるような手立てをとることで、自分に合った表し方で表現する児童の姿をご覧ください。

1 題材名 私の附属小学校（絵に表す、立体に表す）

2 題材の構想

(1) 題材について

本題材は、児童が6年間の附属小学校生活に思いを巡らせながら、その思いを絵や立体に表現するものである。小学校生活も残すところ約半年となり、児童一人一人が小学校生活への特別な思いをもち始める時期になる。また児童は、6年間の図画工作科の学びを通して様々な力を身に付けてきている。表現したいことに合わせて、表し方を選択し、身に付けた力を活用することで、児童は自分の思いを自分らしく表現することができるだろう（図1）。例えば、

「絵に表す」を選択した場合であれば、見たものを具象に表現することにとどまらず、いくつかの風景を切り取って画面上に構成したり、自分の思いを形や色で抽象的に表したりするなど、様々な表現方法が考えられる。これは「立体に表す」を選択した場合も同様であり、児童は自分の思いと選択した表し方から、自分に合った描画材や材料、場所等を工夫し、自分なりに表すことができると考える。

(2) 児童について

5月実施のアンケートの結果、「図工の学習は好きですか」という項目に対しては、33名中、好き22名、どちらかといえば好き9名、どちらかといえば嫌い1名、嫌い1名であった。一方、「図工の学習で、自分でかき方や作り方を考えたり、表し方を工夫したりすることは好きですか」という項目に対しては、好き16名、どちらかといえば好き12名、どちらかといえば嫌い3名、嫌い2名であり、どちらかといえば好き以下の割合が大きくなっている。それらの児童は、「想像するのが苦手だから」「アイデアが思い浮かばないと焦ってしまうから」「先生から言われた方が分かりやすいから」など、自ら造形活動を考えることへの苦手意識を理由として述べている。しかし、それこそが図画工作科の本質であり、児童が学びをつくることである。4月実践「学級目標をつくろう」や7月実践「ぼくの夏」では、教師が表し方を定めるのではなく、児童自らが表し方を選択して活動をしてきた。その中で、児童は自分に合った表し方を見付けたり、友達の多様な表現に触れることで見方や感じ方を広げたりしてきている。本題材でも、児童自らが造形活動を選択し決定する場面を多く設定している。そのような場面で、一人一人の思いに沿った適切な手立てをとることで、自ら造形活動を考えたり、工夫したりすることのよさや達成感を味わうことができるようにする必要があると考える。

(3) 指導について

第一次では、児童が附属小学校への思いを高め、活動へのイメージを広げることが大切にする。児童と共に校内を巡りながら附属小学校での思いを喚起する。実際の場所に行きどどのように表現したいか

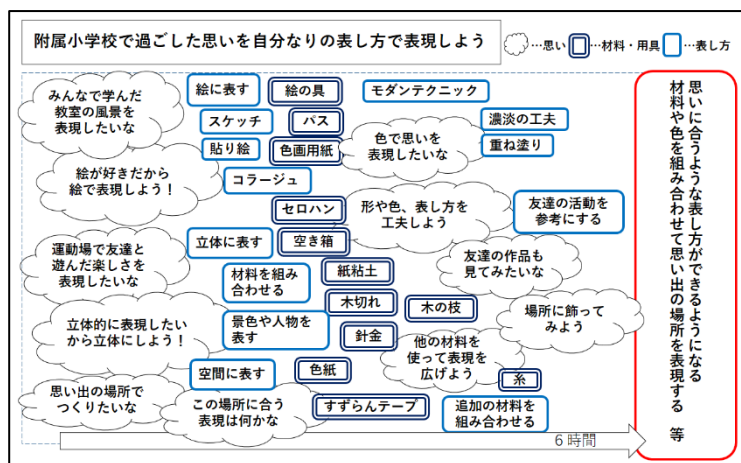


図1 想定されるアートマップ

を考えたり、友達と自由に語り合ったりすることで、イメージを広げることができるようにしたい。その後、アートマップを作成し、学級全体で共有する。児童一人一人が抱く附属小学校への思いや、その思いをどのような表し方で表現するのかを可視化することで、児童が多様なアイデアの中から自分に合った表し方を選択したり、新たな活動を思い付いたりすることができるようにしたい。この時、児童自身もマイアートマップを作成し、自らの活動への見通しをもつ。しかし、実際の造形活動においては、活動中に新たなアイデアが生まれたり、活動を途中で変更したりすることもあるため、必ずしもアートマップ通りに活動を進める必要はないことも児童に周知する。

第二次では、児童が自分の表現したいことに合わせて表し方を選択し、自ら活動を展開することができるようにする。そのために教師は、児童の活動中の姿と共に、マイアートマップを手掛かりに児童の思考を見取るようにする。本題材では、**図1**のように様々な活動が展開されることが予測されるため、活動中の姿だけでは児童全員の思考を見取ることが難しい。アートマップでの予測や、マイアートマップを見取りの手段の一つとすることで、一人一人に応じた手立てが可能になると考える。手立てとしては、特に共感や称賛の言葉かけを大切にしていく。そのことで、児童が発揮している知識・技能を価値付けたり、発想や構想の広がりを実感したりすることができるようにする。その他にも、その児童の表現に合うと思われる材料を提示したり、イメージが広がりそうな児童同士をつないだりするといった手立てが考えられる。

#### (4) 期待する「回遊する学び」について

本題材及び本時における児童の姿を、小学校全体テーマの「回遊する学び」に関わる内容と資質・能力に関連付けたものが、**表1**である。

**表1 期待する「回遊する学び」に関わる内容と資質・能力、児童の姿**

	内容	資質・能力	児童の姿
<b>ステージA</b> 「題材・領域」	図画工作科 「私の附属小学校」	・表したいことに合わせて表し方を選択し、形や色を工夫して表現することができる。 【思考力、判断力、表現力等】	・自分が表したいことに合わせて表し方を選択し、形や色を工夫して表現している。
<b>ステージB</b> 「同教科」	図画工作科 小学校6年間で学習してきた全題材	・これまでに身に付けてきた知識・技能や、発想や構想の能力を活用することができる。 【知識及び技能】	・自分が表したいことに合わせて、これまでの学習で身に付けてきた力を発揮している。
<b>ステージC</b> 「他教科」	特別活動 「6年間の成長と自分のよさ」	・自己の生き方について考えを深め、自己実現を図ろうとする。 【学びに向かう力、人間性等】	・小学校生活を振り返り、自分のよさに気付いて表現している。
<b>ステージD</b> 「実社会・実生活」	附属小学校生活での思い出	・小学校生活を振り返り、主体的に表現する活動に取り組むことができる。 【学びに向かう力、人間性等】	・主体的に表現し、つくりだす喜びを感じている。

第一次では、**ステージC**と回遊することで、児童がイメージを広げ、造形活動への意欲を高めることができるようにする。また、第二次では、**ステージB**と回遊することで、児童が自分の表したいことに合った表し方を選択し、身に付けた力を活用することができるようにする。さらに、本題材では児童の活動が多岐にわたるため、多様な**他者の発想**に触れることが自らの表現の幅を広げることにつながる。同じような思いをもっている児童同士をつないだり、自分なりの表し方ができている児童を紹介したりすることで、見方や感じ方を深めることができるようにしたい。

### 3 題材の目標と評価規準

#### (1) 題材の目標

感じたことや想像したことから表したいことを見付け、表したいことに合わせて表現方法を選択したり、これまでに身に付けてきた力を総合的に発揮したりしながら表現することができるようにする。

(2) 評価規準

ア 表したいことに合わせて表現方法を選択したり、これまでに身に付けてきた力を総合的に発揮したりして表している。 【知識・技能】

イ 題材を基に感じたことや想像したことから表したいことを見付け、形や色、材料の特徴などを捉えながらどのように表すかについて考えている。また、自分たちの作品の造形的なよさや美しさ、表現の意図や特徴について感じ取ったり考えたりし、見方や感じ方を深めている。 【思考・判断・表現】

ウ つくりだす喜びを味わい、自ら表現する活動に取り組もうとしている。【主体的に学習に取り組む態度】

4 題材の指導計画（全6時間 本時4／6時間目＋課外1）

次	時	主な学習活動（○）	指導上の留意点（・）	評価規準（◆）【観点】	回遊
一	1	○校内を見て回り、附属小学校への思いをもつ。 ○アートマップを作成し、活動の見通しをもつ。 ○表し方を試す。	・児童の自由な発想を尊重することでイメージを広げ、児童が自分に合った活動を選択することができるようにする。 ・アートマップを作成することを通して、児童が自分の活動を見通したり、振り返ったりすることができるようにする。また、教師が児童一人一人の思いや活動を見取ることができるようにする。 ・表し方を試すことで、次時に必要な材料等を準備することができるようにする。	◆題材を基に感じたことや想像したことから表したいことを見付け、どのように表すかについて考えている。 【思・判・表】	C D 他者
二	2 3	○表したいことに合った表現方法や材料、形や色を考えて表現する。	・児童が表したいことに合った表現を試すことができるように、様々な材料や用具を準備する。 ・事前にマイアートマップを確認しておくことで児童の思いを把握し、思いを表現につなげることができない児童に対して手立てをとる。	◆表したいことに合う材料や形、色を選択しながら、どのように表すかについて考えている。 【思・判・表】	A B 他者
	4 本時	○これまでに身に付けてきた力を活用し、イメージに合うように工夫して表現する。	・前時までの活動やマイアートマップを事前に確認しておくことで、材料の提示や児童同士をつなぐ等、一人一人に応じた手立てをとることができるようにする。 ・これまでに身に付けてきた力を発揮している児童の姿を称賛し、全体に広げる。	◆表したいことに合わせて、これまでに身に付けてきた力を総合的に発揮しながら表している。 【知・技】	A B 他者
	5 6	○新たな表現を組み合わせたたり、友達の表現の工夫を取り入れたりしながら、自分のイメージに合うように表現する。	・前時までの活動やマイアートマップを基に一人一人の活動の変容を把握し、共感や称賛の言葉かけを多くすることで、児童の達成感につなげるようにする。 ・これまでに身に付けてきた力を発揮していたり、友達の活動を参考に表現を広げたりしている児童の姿を称賛し、全体に広げる。	◆材料や用具、形や色を組み合わせながら、自分のイメージした表現に近付けるために進んで活動に取り組もうとしている。 【主】	A B 他者
	課外	○自分の思いに合う場所に作品を掲示したり、他者に作品を紹介したりする。	・自ら選んだ場所に作品を展示し、他者に見てもらおうことで、達成感を味わうことができるようにする。		

5 本時の指導（4／6）

(1) 指導目標

表したいことを表現するために、これまでに身に付けてきた知識・技能を活用したり、発想や構想の能力を働かせたりすることができるようにする。

(2) 評価規準

ア 表したいことに合わせて、これまでに身に付けてきた力を総合的に発揮しながら表すことができる。 【知識・技能】

